

アズマシャクナゲ (学名: *Rhododendron degronianum*)

[ツツジ科 ツツジ属]



▲要害山登山道

シャクナゲは「石南花」と書きます。南向きの石の多い場所を好んで生育することから中国で名づけられたものです。ところが、中国と日本のシャクナゲは別な種類です。日本にはシャクナゲの仲間はいくつかあり、只見町にはアズマシャクナゲとハクサンシャクナゲの2種類が分布します。どちらも浅草岳や会津朝日岳など山地や亜高山に生育しますが、葉と花の形状で見分けることができます。葉を見るとアズマシャクナゲは細長く先端付近が広がっています。それに比べてハクサンシャクナゲは楕円形で縁が裏に巻いています。花の切れ込みを見るとアズマシャクナゲは6~7裂のものが混じるのに対し、ハクサンシャクナゲは5裂になっています。この2つの特徴を捉えれば2種類の区別も簡単なものになるでしょう。

蒲生岳、会津朝日岳、浅草岳の山開きの頃がちょうどシャクナゲの花期にあたります。登山道沿いにきれいで大きなシャクナゲの花を楽しみながら登山を楽しめそうです。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

企画展示

「春植物の生活史

つかの間の季節を生きる色とりどりの花たち」

期 間：6月13日(月)まで

問い合わせ先:只見町ブナセンター 電話0241-72-8355

7月から昆虫の企画展が始まります。ユネスコエコパーク事業の自然環境基礎調査として2年間に渡り昆虫相の調査をした結果を報告します。